

ヨーロッパ仕込みの国産断熱材メーカーならではの 断熱材から気密部材まで ワンストップで手に入る

高性能住宅の設計・施工では、断熱材の選び方も賛否を左右する大切な要素の1つ。ここでは、マグ・イゾパールのグラスウール断熱材を標準仕様としている松尾設計室に、断熱性能とコスト以外で判断した独自の採用理由を聞いた。



松尾さん推薦!



グラスウールを製造する際にはバインダー(結合剤)が使われるのですが、同社の「イゾパール・シリーズ」は石油化学物質系のバインダーではなく、植物由来のバインダーが用いられています。環境への配慮も、採用している理由の1つです。



松尾和也さんによる
グラスウール断熱材の
解説動画はこちら

工務店にきちんと推奨している。建材の質だけでなく、正しい技術を普及している企業として信頼が置ける。

このように、マグ・イゾパールでは、快適性・省エネ性の向上と、内部結露から躯体を守る耐久性がワンストップで手に入るのが最大の魅力である。

正しい施工方法を普及
グラスウールはマグ・イゾパール

ある同社は、この方法を日本の工務店にきちんと推奨している。建材の質だけでなく、正しい技術を普及している企業として信頼が置ける。

このように、マグ・イゾパールでは、快適性・省エネ性の向上と、内部結露から躯体を守る耐久性がワンストップで手に入るのが最大の魅力である。

耐久性、耐火性に優れた断熱材グラスウール
さまざまな種類から選べる断熱材。松尾設計室ではそのなかから、充填断熱にグラスウールを採用している。理由は、グラスウールは無機質のガラスをリサイクルした断熱材であるため、環境や経年による変化が少なく、火災時に高温になってもガスや有害物質が発生しない安全な素材だから。また、松尾設計室で取り入れている湿式の付加断熱工法とグラスウールを併用すると、防火30分大臣認定を取得できる大きなメリットもある。

1つ目は、企業の姿勢に共感できること。グラスウールの理想的な施工法は、裸のグラスウールに防湿気密シートを張る方法で、ヨーロッパではこれが常識である。住宅用グラスウール断熱材の製造および販売活動で世界一のシェアを誇るサンゴバングループ(フランス)の一員である同社は、この方法を日本の工務店にきちんと推奨している。建材の質だけでなく、正しい技術を普及している企業として信頼が置ける。

2つ目は、断熱材だけでなく、施工部材のラインアップも充実していること。防湿と透湿のダブルの性能をもち、夏・冬のどちらも壁体内の湿度調整が可能な調湿気密シート「イゾパール・バリオ エクストラセーフ」や、気密テープなど、断熱・気密施工に必要な副資材を展開しており、気密施工まで相談できる。特に調湿気密シートは、一般的なポリエチレンフィルムの防湿気密シートと違い、ポリアミドホイルとポリエステル不織布できているため、重量が軽く作業性も高い。裏面が不織布なので、グラスウールに載せてもずれにくいなど、施工者への配慮も行き届いている。

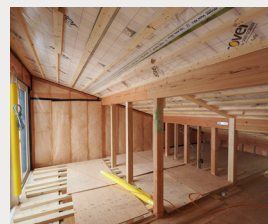
耐久性、耐火性に優れた断熱材グラスウール

1つの「イゾパール・コンフォート16K」(熱伝導率0.038 W/m・K)を松尾設計室では標準仕様としている。しかし、グラスウール自体はメーカーによる性能差、価格差がほとんどないと松尾さんは言う。では、どのような視点でメーカーを選定しているのかうかがうと、2つの理由が挙げられた。

気密施工まで
トータルコーディネート

調湿気密シート「イゾパール・バリオ エクストラセーフ」や気密テープ「マルチテープSL」などの資材もまとめて発注でき、発注手間を省ける

調湿気密シートは、半透明になっておりシート上から躯体や断熱材を確認できる。また、10cm角のスケールがプリントされておりカットしやすい



「イゾパール・コンフォート」を屋根に200mm、壁に105mm施工し、調湿気密シート「イゾパール・バリオ エクストラセーフ」を張った(設計:松尾設計室)